

## 行政評価を活用した事務事業の見直し・改善について

## 1 「行財政改革推進プラン（仮称）」への位置付け 【資料4-1】

- 第2次総合計画では、基本構想（政策）・基本計画（施策）・実施計画（事務事業）の3つの計画について、目的と手段が連鎖的につながる三層構造の計画体系を構築し、この体系に即して、施策評価（基本計画レベル）と事務事業評価（実施計画レベル）の二段階の行政評価を実施することとしている。
- その上で、行政評価を活用して、事務事業単位の見直し・改善に係るPDCAサイクルを構築することとしており、「行財政改革推進プラン（仮称）」においては、その構築・実行に向けて必要となる具体的な手法やプロセス等を「具体的な取組項目」と位置付け、取組の実効性を確保していく。

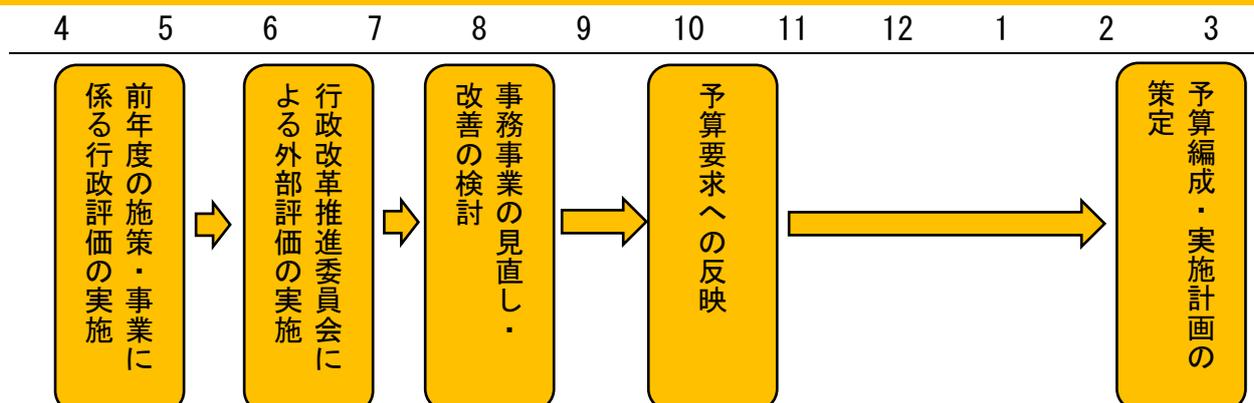
## 2 本市の行政評価の基本的な考え方 【資料4-2】

- 個々の事務事業の有効性（施策への寄与度等）・効率性の評価を踏まえて、施策評価を実施し、施策の今後の方向性を整理した上で、施策目的（達成度指標）を達成するための手段である事務事業の見直し・改善につなげる。
- 事後評価及び施策・事業担当課の自己評価を基本とする。なお、評価の妥当性・客観性を確保するため、外部の視点からの評価（外部評価）を実施する。

## 3 外部評価について

- 評価の妥当性・客観性の確保を主眼に、施策評価を中心として、主に次の視点から「行政改革推進委員会」において意見等を聴取する。
  - 達成度指標の要因分析が妥当か
  - 各事務事業の評価が適切か（施策への寄与度等）
  - 達成度指標の状況と事務事業評価結果を踏まえた上で、「施策の今後の方向性」が整理されているか
- 外部評価の対象とする施策については、施策担当課による「施策の今後の方向性」の内容を踏まえて、特に外部の視点からの評価が必要となる5施策程度（37施策中）を抽出する。
- 「施策の今後の方向性」は、関連する個別の事務事業に関する継続や見直し等の方向性を含むものであり、その継続や見直し等の判断の妥当性や、見直し等を伴う場合の見直し案の方向性についても、代替案の提案も含めて、意見聴取するものとする。

## 4 評価のスケジュール（想定）



## V 基本計画を核とする行政運営マネジメントの実行

### (1) 三層構造の計画体系の構築

#### 実施計画の作成

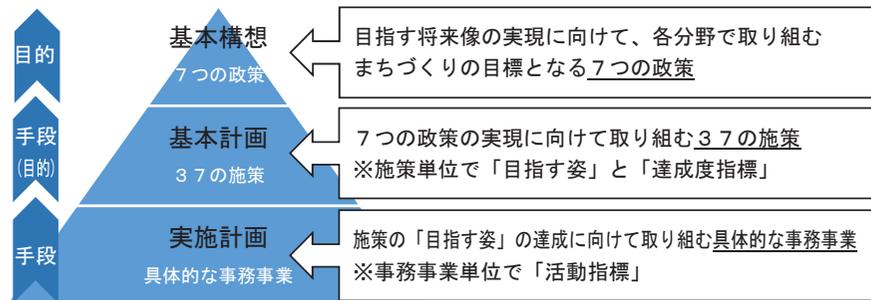
基本計画で掲げる 37 の施策ごとに、施策の方向性に即した具体的な事務事業について、向こう 3 年度間の事業費の見込み、事業計画及び活動指標（行政活動そのものの結果に係る数値目標）等を定める「第 2 次総合計画（実施計画）」を作成します。

実施計画の計画期間については 3 年度間とし、予算編成にあわせて毎年度作成（ローリング）することにより、予算編成と連動を図りながら、事務事業の進捗を適切に管理します。



#### 三層構造の計画体系

行政運営マネジメントの基軸として、第 2 次総合計画を構成する基本構想（政策）・基本計画（施策）・実施計画（事務事業）の 3 つの計画について、目的と手段の関係が連鎖的につながる三層構造の計画体系を構築します。



### (2) 計画体系に即した行政評価の実施

#### 施策評価（基本計画）

37 の施策単位で、前年度の施策の取り組み内容について、事務事業評価の結果と達成度指標の状況を踏まえた評価を実施し、施策の今後の方向性を整理します。評価結果については、新規事業の立案や、事業間の優先順位づけ等に活用します。

また、評価の妥当性・客観性を確保するため、外部の視点からの評価を実施します。

#### 事務事業評価（実施計画）

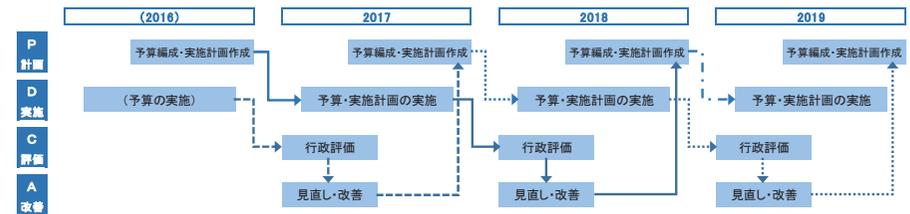
実施計画掲載事業を対象として、前年度実施した事務事業について、活動指標や必要性・効率性、施策への寄与度を検証し、施策に対する手段である事務事業を評価します。

一般的に行政評価とは、『政策、施策及び事務事業について、事前、事中、事後を問わず、一定の基準、指標をもって、妥当性、達成度や成果を判定するもの』(※)とされており、清須市においては、事後評価を基本とします。  
※「地方公共団体における行政評価の取組状況等に関する調査結果」(平成 26 年 3 月 25 日付け総務省報道資料)より

### (3) マネジメントサイクル

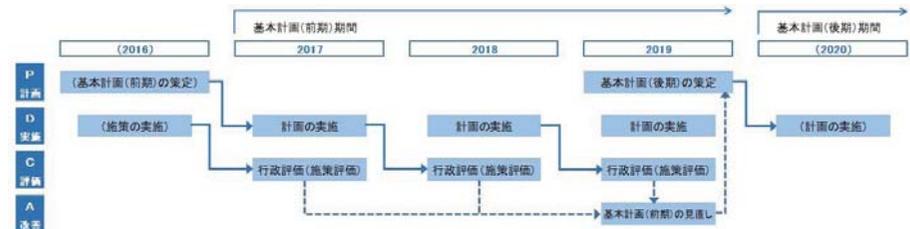
#### 事務事業単位

実施計画をベースとして、第 2 次総合計画の進捗管理と予算編成作業との連動を図るとともに、行政評価を活用して、事務事業単位の見直し・改善に係る P D C A サイクルを構築します。



#### 計画全体

毎年度の施策評価の結果の蓄積を活かして、計画全体（基本計画）の見直しを実施します。



実施計画と事務事業評価の様式イメージ(平成29年度事業)

実施計画(平成28年度作成)

政策名	4	便利で快適に暮らせるまちをつくる		
施策名	405	公共交通の充実		
施策の展開	1	コミュニティバスの運行		
	3	各種イベント等を通じた利用促進		
	4	ルート・ダイヤ等の見直し		
事業名	コミュニティバス運行費		事業の方向性	継続
担当課	企画政策課			
事業目的	3路線で市内を循環するコミュニティバス「あしがるバス」により、高齢者や主婦層等の日中市内移動の利便性を高める。また、各種イベント等を通じた利用促進に取り組むことにより、「あしがるバス」の認知度を高めるとともに、定期的なルート・ダイヤ等の見直しにより、市民ニーズへの対応を図る。			
事業費 (単位:千円)	平成28年度(最終予算)	平成29年度(当初予算)	平成30年度	平成31年度
	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源			
活動指標①	あしがるバスの運行便数(1日あたり・便)			
	平成28年度(見込み)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
[目標]				
活動指標②	利用促進イベントの実施回数(回)			
	平成28年度(見込み)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
[目標]				
事業計画	平成28年度(見込み)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	コミュニティバスの運行	→ → →	→ → →	→ → →
	利用促進策の推進	→ → →		
	公共交通意識調査の実施			
		運行事業者の選定		
				地域公共交通網形成計画の改訂

●第2次総合計画(基本計画)で掲げる施策ごとの「施策の展開」に即して事業を整理

●平成29年度以降の事業の方向性を記載(新規・拡充・継続・縮小等)

●平成29年度(当初予算)を基礎として、向こう3年度間の事業費の見込みを記載

●行政活動そのものの結果に係る数値目標である「活動指標」を設定  
●「活動指標」に即した行政活動の成果として、施策の「達成度指標」(例:あしがるバスの1便あたり利用者数)が向上

●事業を中期的に展望し、進捗に関わる重要な事項を整理(事業の見直し、計画の改訂など)

※第2次総合計画(基本計画)で掲げる施策ごとの「施策の展開」に即して、具体的な事務事業(予算事業)を整理し、事務事業単位で実施計画を作成(1施策あたり2から3事業程度を目安として、全100事業程度を予定)

事務事業評価(平成30年度作成)

政策名	4	便利で快適に暮らせるまちをつくる		
施策名	405	公共交通の充実		
施策の展開	1	コミュニティバスの運行		
	3	各種イベント等を通じた利用促進		
	4	ルート・ダイヤ等の見直し		
事業名	コミュニティバス運行費			
担当課	企画政策課			
事業目的	3路線で市内を循環するコミュニティバス「あしがるバス」を運行することにより、高齢者や主婦層等の日中市内移動の利便性を高める。また、各種イベント等を通じた利用促進に取り組むことにより、「あしがるバス」の認知度を高めるとともに、定期的なルート・ダイヤ等の見直しにより、市民ニーズへの対応を図る。			
決算額 (単位:千円)	平成28年度	平成29年度	平成30年度(当初予算)	
	[ ]	[ ]	[ ]	
[執行率%]	[ ]	[ ]	[ ]	
国・県支出金				
地方債				
その他				
一般財源				
活動指標①	あしがるバスの運行便数(1日あたり・便)			
[目標]	平成28年度	平成29年度	平成30年度(見込み)	
[実績]				
活動指標②	利用促進イベントの実施回数(回)			
[目標]	平成28年度	平成29年度	平成30年度(見込み)	
[実績]				
目標に対する実績の評価	●実績の要因分析や目標設定の妥当性などを評価			
効率性	●事業費の縮減状況や業務の簡素化といった視点から、事業の効率性を評価			
施策への寄与度	●活動指標の評価や施策の「達成度指標」の検証を踏まえ、当該事業の施策への寄与度を評価			

施策評価の様式イメージ [平成29年度施策（平成30年度作成）]

政策4 便利で快適に暮らせるまちをつくる

施策405 公共交通の充実

【施策の展開】

- 1 コミュニティバスの運行
- 2 レンタサイクルの運営
- 3 各種イベント等を通じた利用促進
- 4 ルート・ダイヤ等の見直し
- 5 福祉有償運送制度の運用

【「実施計画(平成28年度作成)」掲載事業】

- 1 コミュニティバス運行費
- 2 レンタサイクル費

I 平成29年度の主な取組結果

- 基本計画の「施策の展開」の項目に沿って、前年度の主な取組結果を整理
- 「達成度指標」や「活動指標」に設定していない指標（入場者数、参加者数等）の状況も交えて、取組結果をできる限り定量的に整理

II 達成度指標の状況

指標	基準値	目標値		実績値		
		前期計画	後期計画	平成28年度	平成29年度	平成30年度
市民満足度調査における満足度	33.4%					
「あしがるバス」を知っている市民の割合	97.1%					
「あしがるバス」の1便あたりの利用者数	オレンジ:5.2人 グリーン:4.9人 サクラ :5.5人					
目標値（前期計画）に対する実績値の評価	●前年度時点までの達成度指標の状況を踏まえて、実績値の要因分析や目標値（前期計画）への到達見込み等を評価					

III 事務事業評価結果

事業名	決算額 [執行率%]		活動指標①		活動指標②	
	平成28年度	平成29年度	目標(平成29年度)	実績(平成29年度)	目標(平成29年度)	実績(平成29年度)
コミュニティバス運行費	[ ]	[ ]	あしがるバスの運行便数(1日あたり・便)		利用促進イベントの実施回数(回)	
レンタサイクル費	[ ]	[ ]				
各事業の施策への寄与度	●事務事業評価において整理した各事業の施策への寄与度を整理					

IV 施策の今後の方向性

- 「達成度指標の状況」及び「事務事業評価結果」を踏まえて、施策の今後の方向性（関連する事務事業に関する継続や見直し等の方向性を含む）を整理
- 整理した方向性を、翌年度（平成31年度）の予算編成と実施計画へ反映

V 外部評価における主な意見

- 施策担当課の評価（I～IV）に対する外部評価における主な意見を整理